

信友

信友会事務局

〒162-0845
新宿区市谷本村町3-19
千代田ビル101号室
(防大同窓会本部内)信友会事務局
電話 080-7494-0245
メールアドレス
shinyukai@tune.ocn.ne.jp

主 な 記 事

- 2面：陸幕通信電子課長
陸幕通電課総括班
- 3面：会員だより
第六十二回総会・合同歓送迎会等
- 4面：事務局だより
「会員の皆様へのお知らせ」・「新会
員」の紹介・「叙勲授章者」の紹介・
「逝去者」のお報せ

激動の時代における迅速な状況判断 の必要性

信友会会長 河本 宏 章



信友会々員の皆様、そして
全国の現役のシステム通信科
幹部の皆様におかれましては、
益々ご健勝でご活躍のこととお
慶び申し上げます。令和七年

(2025年)は、一月二十日トランプ氏が米国の第四十七
代大統領に就任以降、世界がトランプ旋風に翻弄されて
きたという印象があります。ウクライナへのロシアの侵略
に対する停戦に向けた交渉中に、ロシア、中国、北朝鮮
が近年見られなかったほど接近しており、冷戦期のような
東西分裂状態とは異なり、いろんな覇権争いが渦巻いて
いて、どこに立ち位置を設定するのが日本の国益なのか
を迅速に見極めることが必要であると感じます。

国内では、高市政権が誕生しましたが、その成立過程
の中で、まさに戦機を見極める重要性を目の当たりにし
ました。首班指名選挙後、野党のある党首が「永田町の
回転寿司は一度取り損なうと二度と回ってこない。」と揶
揄したことからもうかがえます。防衛省・自衛隊にとっ
て良い方向に進むことが期待できる内閣の誕生ですが、
国家安全保障上の課題は山積しており、早期に戦略三文
書を改訂して、新領域の実質的な戦力増強と自衛隊員の
処遇改善を促進していただきたいものです。

防衛省・自衛隊においては、三月に統合戦司令部が新
編され、新たな統合運用体制が確立されました。そのよう
な流れを受け、陸上自衛隊においては、今年度末、「補給
統制本部」が改編され、各方面隊の補給処を隷下に置く
「補給本部」となると聞いております。また、武器・需品・
輸送の各職種を横断した後方支援全体の教育・研究機能と
して「後方支援学校」が発足する予定であり、信友会員の
中には、補給整備業務に携わられた方も多くおられ、これ
ら新たな組織の発展に注目されていることと思います。

我らの母校である「陸上自衛隊システム通信・サイバ

ー学校」は新たにスタートして間もなく二年が経とうとして
います。システム通信・サイバー学校への改編にご尽力さ
れた奈良岡将補は関西補給処長にご栄転されました。青
木新学校長には、高度な技術的センスをいかななく発揮
していただき、部隊で必要な人材の育成とシステム通信科
の発展にご尽力いただけるものと確信しております。

戦略国際問題研究所(CSIS)のレポート(Conflict
Focus: Lessons from Russia—Ukraine 2025.5)
E、「電磁環境下での諸兵科連合作戦(Combined arms
operation)」を遂行できる専門軍人の育成が極めて重要」、
また「人工知能と機械学習は、将来の電子戦の中核をな
し、人間の能力を超える速度で自律的に感知・分析及び
対応できる認知的電子戦プラットフォームを実現する」と
の記述があり、まさに大量のデータを分析できるAIの能
力を活用して迅速に判断でき、他職種部隊と協同して作
戦を遂行できる人材を、システム通信・サイバー学校に於
いて育成していただくことが必要だと思えます。

新型コロナ感染症の影響はほぼ下火になりましたが、物
価の値上がり、インバウンドの増加による観光地での混
雑、猛暑日の異常な長期化、豪雨の頻繁な発生等、生活
に直接影響を及ぼす要因も多様化しており、一昔前の常
識で行動しては対応を間違える時代になってきてお
ります。自衛隊を退官した我々も、溢れる情報の中から、
判断に重要な影響を及ぼす情報のみをピックアップでき
る能力を身に着けることが必要になってきているように
思えてなりません。一方で緊要な情報が入手できることを
待つことなく、その時点で保持している情報のみで判断す
る勇氣を持つことも重要ではないかと考えています。

信友会の運営要領につきましても環境の変化にに応じて
見直しを行う旨、前回の総会時にお伝えしました。新た
な施策を講じる際には、会員の皆様に可能な限り丁寧に
説明してまいりますので、忌憚のないご意見を賜りたく
存じます。何卒、ご理解とご協力をいただきますようお願い

願いたします。

信友会は同窓会の一種であります。AIに「退職者が集
まる同窓会の意義は？」と尋ねてみたところ、「長年共に
働いた仲間との絆を保ち、心の支えとなる人間関係を維
持できます。同じ経験を持つ仲間との会話は、安心感や共
感を生みます。組織の歴史や文化を継承する役割も担い
ます。自分が働いてきた年月を振り返り、仲間とともに感
謝の気持ちを共有する場になります。」など、多様な価値
があることを再認識できました。そのような価値を信友
会として会員の皆様に提供するとともに、システム通信科
の一致団結の一助となるような会を運営してまいる所存
でありますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

陸上自衛隊システム通信・サイバー学校 改編2年目の展望

システム通信・サイバー学校長
陸将補 青木 圭



8月1日付で第2代シ
ステム通信・サイバ
ー学校長を拝命しました青木
将補です。前職のシステ
ム通信団長から引き続き
システム通信科職種を代

表する職責を得ましたこと、大変光栄であるとともに、
その重責に身の引き締まる思いです。

信友会会員の皆様におかれましては、平素よりシステ
ム通信・サイバー学校はもとより、各部隊・機関の各種
活動に対するご理解、ご協力を賜り、心より感謝申し上
げます。

システム通信・サイバー学校は改編2年目を迎え、職
種・職域の中心的な存在としての役割を果たすべく、本年
度も各種教育・支援等に励んでいるところですが、戦後
最も厳しく複雑な安全保障環境に直面している我が国の
現状を鑑みるに、本校に対する期待値、重要性が一段と
高まっているのを強く感じています。ロシアのウクライ
ナ侵略により国際秩序を形作るルールの根幹が破られ、
同様の深刻な事態が我が国周辺において生起する可能性
を排除できない情勢となっているとも言われており、サ
イバー空間、宇宙空間、電磁波領域などにおいて、自由
なアクセスやその活用を妨げるリスクが深刻化してきて

います。特にサイバー攻撃の脅威は急速に高まってお
り、軍事目的の達成のために軍事的な手段と非軍事的な
手段を組み合わせるハイブリッド戦が、今後、洗練され
た形で実施されると見積もられています。そのような
中、我が国は戦略3文書に基づき、防衛力の抜本的な強
化に取り組んでおり、重視する能力のひとつとして領域
横断作戦能力を掲げています。本校が昨年改編をしたの
も、まさにサイバー空間、宇宙空間、電磁波領域の活用
については、いずれもシステム通信科職種に深く関連す
るものであるからであり、本校はそれらの能力向上の中
核としての真価を問われる正念場に立っていると認識し
ています。いつ事態が生起してもおかしくない昨今にお
いて、貴重な戦力である隊員を入学させてくれている部
隊等の想いを真摯に受け止め、必ずや部隊等で役立つ即
戦力となる人材を輩出するべく努力を傾注する所存であ
り、私を筆頭に学校の全力を結集して実現していきたい
と思います。また、先の国会で「サイバー対処能力強化
法及び同整備法」が成立・公布され、自衛隊に対して新
たな行動類型が創設されたことに伴い、これまでとは異
なる新たな任務・活動が求められることとなりました。
これに連動して新たな教育ニーズ、人材育成の所要が発
生するものと予期しています。警察との連携要領はもと
より、実効性ある運用をしていくためには、まだまだ詰
めていかなければならない事項が多岐にわたる状況だと
は思いますが、新たな任務を着実に遂行し得る人材の育
成は必須であり、サイバー教育を主管するシステム通信・
サイバー学校が主体的に取り組んでいかなければならな
い仕事であると認識しています。これらに加えて電磁波
に係る新たな装備品の取得が予定されており、その運用
能力の向上や整備能力の確保なども重要な任務であるこ
とから、本校はたいへん多くの期待を背負っていると痛
感しておりますが、今後、それらの期待に確実に応えつ
つ、わが国の安全保障に
おいて本当に必要なとさ
れる価値あるシステム
通信・サイバー学校へと
進化を遂げるべく、全力
でリードしていく所存
です。会員の皆様の引き
続きのご支援・ご指導を
賜れば幸甚です。



陸自のシステム通信・サイバーの 現状と展望

陸上幕僚監部装備計画部通信電子課長

一等陸佐 弥頭 陽子



信友会の皆様におかれましては、平素より陸幕通信電子課に対するご理解とご支援を賜り心より御礼申し上げます。この度、陸自のシステム通信・サイバーの現状と展望に関して寄稿の機会をいただきましたので、概要について紹介させていただきます。

令和4年12月、国際社会は戦後最大の試練の時を迎え、新たな危機の時代に突入しているとの基本認識の下、我が国の安全保障政策の主要文書、所謂三文書が策定され、国家安全保障戦略において、防衛力の抜本的強化がうたわれました。

防衛力整備計画では「防衛力の抜本的強化」に資する自衛隊の能力等に関する7つの主要事業として①スタンダード・オフ防衛能力、②統合防空ミサイル防衛能力、③無人アセット防衛能力、④領域横断作戦能力、⑤指揮統制・情報関連機能、⑥機動展開能力・国民保護、⑦持続性・強靱性が示されました。

システム通信は7つの分野全てに関わりが強いですが、中でも指揮統制・情報関連機能において、2027年までにネットワークの抗たん性を強化しつつ、人口知能(AI)等を活用した意思決定を迅速化すること、認知領域を含め、戦略・戦術の両面で情報を取得・分析する能力を強化することを目標としています。関連する取り組みとして、各自衛隊の一元的な指揮統制を可能とする防衛省クラウド(仮称)基盤の整備に向け、各自衛隊クラウドのシステム設計・製造に着手、より迅速かつ的確な情報・統制のため、陸自クロス系クラウドにはAIを活用するための基盤を整備していきます。

サイバー関連は、領域における能力強化のため、省としてサイバーセキュリティ確保のための体制整備、セキュリティ強化、教育・研究に取組んでいます。体制整備としては、自衛隊サイバー防衛隊をはじめ、陸自のサイバー専門部隊の態勢を拡充するほか、高度なスキルを有する民

間人材の活用等に取り組んでいます。セキュリティ強化としては、「一過性の「リスク排除」から継続的な「リスク管理」へ考え方を変え、情報システムの運用開始後も常時継続的にリスクを分析・評価、必要なセキュリティ対策を行うリスク管理枠組み(RMF)を導入しています。また、各自衛隊共通の教育として2019年度から陸自通信学校(当時)においてサイバーセキュリティの教育を実施してきましたが、2024年3月に陸自システム通信・サイバー学校に改編され、サイバー要員育成の教育基盤が拡充されました。

今後の展望として令和7年7月に策定された「次世代情報通信戦略」について紹介します。本戦略は急速に進展する通信技術の適切な利活用が死活的に重要となるなか、Ⅰ省内関連施策の一貫性の確保と部内横断的な検討の促進、Ⅱ防衛省の考え方を示し、民間技術の早期装備化・開発促進により、防衛力強化と経済力強化の好循環を創出することを目的としています。また、現行の防衛情報通信基盤(DII)やシステム等の問題点は、i ネットワークとシステムが分かれて計画・整備され、運用ニーズ変化に応じた効率的な情報通信リソースの割り当てが困難、ii 各軍種の作戦ニーズに沿ってサイロ化されたシステム・アセットが構築され、組織横断的なデータ運用・状況把握等に制約があることと述べ、全てのセンサーやシューターをつないで得られる膨大なデータ通信及び処理を可能とするため、ネットワークとシステムを統合的に構築し、一括したデザインの下、基盤的なプラットフォームとしての新たな防衛情報通信基盤(仮称)を整備するとしています。また、この実現のため光電融合技術等の情報処理技術、量子関連技術、AI技術などの進展も踏まえ、民間で開発中の最先端技術を含む次世代情報通信技術を積極的に活用すると述べています。

この様な観点から、今後はより組織横断的な基盤が構築されるとともに、最先端の技術をより早く取り入れるため、官民の連携も更に促進されていくことが予想されます。

信友会の皆様におかれましては、より一層のご協力とご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、信友会の益々のご発展を祈念致しまして結びの言葉と致します。

陸上自衛隊のシステム・ 通信電子関連予算の現況

陸上幕僚監部装備計画部通信電子課総括班長

一等陸佐 辻 洋平

一 はじめに

(一) わが国を含む国際社会は、今、ロシアによるウクライナ侵攻が示すように、深刻な挑戦を受け新たな危機に突入しております。このような安全保障環境を踏まえ、防衛省・自衛隊においては宇宙・サイバー・電磁波領域を含む全ての領域における能力を有機的に融合する多次元統合防衛力を抜本的に強化するため、スタンダードオフ防衛能力、無人アセット防衛能力、領域横断作戦能力及び指揮統制・情報関連機能等の7つの重視する主要事業分野に基づき防衛力整備を推進しております。

(二) 整備計画期間内の防衛力抜本的強化実現に向けた3年目となる令和7年度においては、衛星コンステレーションの構築等によるスタンダードオフ防衛能力の強化などの重視分野に基づく取り組みを推進するために必要な十分な予算を確保しており、歳出ベースにおいては防衛省として8兆4、748億円、そのうち陸自としては2兆4、954億円を計上しております。

三 おわりに

計58億円を取得しています。

非対称的な優勢を確保していくため領域横断作戦能力の強化についても抜本的な能力強化を推進しておりますが、陸自における電磁波作戦能力強化のため、ネットワーク電子戦システム(NEWS)を1式取得するための88億円及び令和6年度より着手している24式対空電子戦装置を更に2式整備するために必要な64億円を取得しています。

また、高度化・巧妙化するサイバー攻撃に対する防衛省・自衛隊のサイバーセキュリティ態勢の強化のため、陸上自衛隊通信学校をシステム通信・サイバー学校に改編したところではありますが、かかる教育所業に対応するための施設整備に必要な132億円を取得しております。

二 陸自のシステム・通信電子関連事業に係る令和7年度予算取得状況

(一) 強靱な陸上自衛隊を創造するため、陸上防衛力の抜本的な強化を推進しているなかにおいて、陸自のシステム・通信電子関連事業についても無人アセットの取得や領域横断作戦に必要な能力構築等の様々な取り組みを実施しております。

(二) 無人アセットは、部隊の構想や戦い方を根本的に一変させるゲームチェンジャーとなり得ることから、も早期に整備することが必要です。陸自においては、情報収集・警戒監視・偵察・ターゲティング(ISRT)を含む各種用途の無人アセットの取得を推進しておりますが、令和7年度においては合成開口レーダを搭載したUAV(中域用)機能向上型を2式取得するための予算として42億円を取得するとともに、指揮官の状況判断及び火力発揮等に寄与するためのUAV(狭域用)173式及びUAV(狭域用)汎用型383式を取得するための予算として合



陸上自衛隊システム通信・サイバー学校(イメージ)

会員だより

近況報告

「定年退官後の一年を振り返って」

会員 飯塚 友嗣



信友会の諸先輩方におかれましては、いつもご指導・ご鞭撻頂きありがとうございます。ごさいます。

この度信友会機関誌に寄稿させて頂くと言う大変光栄な機会を頂き、もの凄く緊張しておりますが、拙いながら退官からの一年間を振り返って執筆させて頂きます。

私は令和6年7月に退官し、8月から三菱電機株式会社に奉職することとなりました。初めて民間企業で働くにあたり、環境や仕事に慣れることができるか不安でしたが、諸先輩方、同僚等に暖かく迎えて頂き、人の暖かさを感じながらお仕事ができる事に感謝の念を日々実感しております。

退官してからは、二つの事を意識して日々を過ごす様に心掛けています。

ありきたりではありますが、健康と趣味の充実です。健康についてですが、自衛官を退官したことで運動する機会がすっかり減りました。元気で楽しい日々を送るためにも健康管理に気を使わねば、と自戒しております。

現役の時ですが、平成26年から令和2年までの約8年間、子供達が入っていた少年野球チームのスタッフをしておりました。体力的にはとても大変だったのですが、地域の方々と共に活動する機会を得られたことや、子供達と一緒に過ごす時間を持てたこと、また最後の一年は監督をさせて頂き、非常に貴重な体験をさせて頂いたと思っています。

それまでは余り興味の無かった野球ですが、実際にやってみると大変面白く、プロ野球、高校野球などを見るようになりました。特に甲子園では毎試合、球児たちやスタッフ、関係者の方々の努力や情熱に思いを馳せて、どの試合も「よく頑張った」と感動してしまいます。

今は現役の時程運動する事はできなくなってきました



が、健康な生活を送るためにも野球に限らず少しでも運動して、元気な日々を過ごせればと思っています。

二つ目は趣味の充実です。若い頃から読書やドライブがとても好きでした。子供達が小さいうちは、家族みんなでキャンプや海水浴に行ったりしていました。しかし子供達も大きくなり、一緒に出掛ける機会もめっきり減りましたので、その分、どの様に過ごそうかと思いました。

折角なのだと思います、家族に心配を掛け様に気を付けながら、月に一度程度ですが音楽を聴きながらのんびりドライブを楽しんだりしたりする様になりました。

また、夜などに静かに読書する時間がとても好きなので、本を読む時間もこれまでより多くなり、自分自身が楽しむ時間が増えたことを実感しています。

これからも楽しく元気に過ごすためにも、楽しく過ごせる時間を大切にしたいと思っています。

最後になりますが、現役の時から人と会話をする時は努めて笑顔を手掛けてきましたが、ある機会に『顔施(が んせ)』と言う言葉があることを知りました。仏教の言葉との事で、意味は「いつも笑顔で接することで、周りの人たちに元気や明るさを与える」という意味だそうです。

SNS等で、人との繋がりがネット越しになりがちな時代ではありますが、これからも様々な方々と直接お会いする機会には、心からの『笑顔』を手掛けていこうと思っています。

拙い文章となり恐縮ですが、今後とも諸先輩方、関係される多くの方々のご健勝を祈念するとともに、引き続きのご指導ご鞭撻、何卒宜しくお願い致します。

またこの様な機会を頂き、本誌関係者の皆様方におかれましては本当にありがとうございました。

第六十二回 総会・合同歓送迎会

一 全般

「第六十二回総会・合同歓送迎会」を、令和七年二月二十四日(月)「グランドヒル市ヶ谷」において開催しました。

二 総会・講演会

グランドヒル市ヶ谷・珊瑚」において、総会を実施し、職種名称変更等一部会則改正等の承認を得ました。その後、講演会として弥頭陸幕通信電子課長より、「通信電子関連装備の現状と取組み」と題した講演をいただき、陸幕通信電子課としての取組等について、ご紹介いただくことができました。

三 合同歓送迎会

合同歓送迎会は、趣旨を、引き続き「現職とOBとの交流の場」とし、内容としては、従来の内容を踏襲しつつも、会と現職のより合同による式次第・司会要領とし、「グランドヒル市ヶ谷・珊瑚」の大会場にて、会員百三名、現役百二十五名、計二百二十八名の多数の参加者を得て、ゆとりある空間、落ち着いた雰囲気の下、盛大かつ上品で楽しく有意義な時間とすることができました。



河本会長挨拶



第61回信友会総会の開始



陸幕通信電子課長による講演



総会参加会員の状況



合同歓送迎会の様子
(システム通信・サイバー学校長ほか)



来賓代表
(教育訓練研究本部長) ご祝辞



合同歓送迎会会場の状況



現職発起人代表
(システム通信・サイバー学校長) ご挨拶



合同歓送迎会の様子
(手前：80歳以上・歴代会長テーブル)



信友会新入会者紹介



信友会発起人代表(信友会長)挨拶

事務局だより

一 全般

信友会事務局では、令和七年度も、総会・合同歓送迎会を、会場グランドヒル市ヶ谷において開催するとともに、地区懇親会を東北方地区にて開催し、従来ベースレベルで、全国規模の会のイベントを実施することができました。

また、会員相互の親睦を図るべく、機関紙、名簿、会計、信友会ホームページ（以下「信友会HP」という。）等の各種管理業務に継続して取り組んでいます。

更に、事業の見直しについて検討中のところ、一案を得たため今回の総会で議案として提出する予定です。

二 地区懇親会

令和七年四月十二日（土）、東北方面システム通信群創隊六十五周年記念行事に併せ、仙台駐屯地において東北方面地区懇親会を行いました。当日は下平群長・鳥谷部副群長をお招きし、信友会長以下東北地区の信友会員等十七名の参加を得て、東北方面システム通信群からシステム通信群の活動状況の紹介をいただくとともに、信友会活動報告、会員相互の近況報告、写真撮影等を行いました。その後、東北方面システム通信群祝賀会食に参加し、会員相互の親睦を図り、有意義な地区会を催すことができました。



東北方面隊地区懇親会の状況



東北方面隊地区懇親会集合写真

三 信友会会員増加施策

信友会会員の減少傾向に係る問題認識から、平成二十九年度より、信友会会員増加施策として、システム通信・サイバー学校入校中の幹部課程学生に対する会長講話、BOC・SLC課程教育終

了時の優秀学生への会長表彰等を行っています。また、現職システム通信科部隊指揮官への着任時に、会長より、信友会の趣旨や活動を紹介するお便り（メール）をお送りし、信友会HPの閲覧に必要な情報も併せて提供する等、信友会の活動に対する現職隊員による理解の輪を広げる施策に取り組んでいます。



BOC学生に対する会長講話



SLC優秀学生に対する会長表彰

四 信友会メール及び信友会HP

友会のトピックス、慶弔等に係る情報をタイムリーにお伝えできるよう、信友会メール及び信友会HPでは、最新の記事はもとより、機関誌等のバックナンバーもご覧になれます。これらは、自宅のパソコン、スマホあるいは勤務先のパソコン問わず、登録したID（メールアドレス）と所定のパスワードにより複数の端末にて閲覧が可能です。是非、お試しください。また、信友会メールについても、複数のアドレスに送付できますので、メールアドレスの変更・追加等、信友会事務局（shinyukai@tune.ocn.ne.jp）までメールにてご連絡ください。

五 信友会役員紹介

〔会長〕 河本宏章
〔副会長〕 堀江祐一
〔総務〕 長：川口晃史 小松広志 山口賢二
 畠山浩明 森 龍雄 和泉賢一（兼）
〔機関紙〕 長：矢野裕久 大西準一 長尾典忠
〔名簿〕 長：堤浩一郎 中村靖彦 安楽正則
〔会計〕 長：亀澤秀樹 和泉賢一
〔監事〕 長：秋山賢司 田川信好

六 掲載記事について

掲載記事の内容と執筆者の職名等は、令和七年十一月一日現在のものです。

会員の皆様へのお知らせ

本件については、2月23日の総会において議案として提出する予定としており、その概要を事前に会員の皆様にお知らせするものです。

信友会の事業形態が変わります

これまで会員名簿及び機関紙を郵送によりお届けしていましたが、クラウドシステム※の導入によりペーパーレス化を図ります。

これにより会員名簿及び機関紙は、パソコン或いはスマホなどから閲覧いただくこととなります。また信友会事業の運営に関して、会員の皆様のご意見を反映させる枠組みの構築が可能となります。

※クラウドシステム…インターネットを介して各種のデータを管理、提供することができるサービス

なぜ、事業形態を見直すのか？

これまで、会員の皆様より隔年で2千円の通信等事務費をいただいていた信友会事業を運営してきましたが、物価・人件費高騰などの影響もあり、支出が収入をオーバーする状況がここ10年来続き、信友会事業の継続に多大な影響を及ぼしています。収支のバランスをとるには、現時点で従来に比し倍額（2千円／年）となる通信等事務費をいただく必要がありますが、業者からは用紙代や印刷物の発送にかかる人件費は今後更なる高騰の可能性がある旨を伝えられており、役員会としては安定した事業の継続が担保できないものと判断しました。また、信友会事業の運営に充てている役員のマンパワーは、各種の事情により年々減少しており、事業継続のためにも役員業務の効率化が喫緊の課題となっていたことも大きな要因です。

事業形態を見直すと、集金額はどうなるのか？

クラウドサービスを使用するための導入経費及び維持経費が必要になるものの、印刷・郵送等の経費が一切からなくなるため、集金額は据え置き（2千円／隔年）で事業の継続が可能と見積もっています。なお、経費は通信等事務（印刷・郵送等）に特化したものではなく、会運営全般に充てることとなるため、これまで使用していた科目名「通信等事務費」は「年会費」に変更します。

いつから、新しい事業形態がはじまるのか？

今回配布した会員名簿・機関紙が、紙面により提供する最終号となります。次回配布時期（令和9年1月を目途）より、クラウドサービスによる会員名簿・機関紙の閲覧が可能となります。

新しい事業形態の手続きはどうするのか？

クラウドサービスを使用するために各会員が行うべき手続きについては、逐次信友会HPに公開するとともに、来年度の秋を目途に各会員に必要な資料を郵送することを検討しています。また、クラウドサービスに加入する際、メールアドレスの登録が必要になります。現在、会員の大多数はメールアドレスを登録いただいておりますが、若干名メールアドレスを登録していない会員がいらつしやいます。この機会に、メールアドレスの登録をご検討ください。

本件に関してご意見がありましたら、メールもしくは書簡にてご連絡ください。ご意見を提出せずに総会を欠席された場合、議決は役員会に委任されたものとして処置させていただきます。

信友会新入会員

(R6.12.2～R7.11.1)

氏名	最終所属	入会年月日	現住所
古川 洋彰	東北方面総監部	R7.1.25	青森県
小山 悟	北海道補給処	R7.2.18	北海道
平野 輝雄	電子作戦隊	R7.3.24	北海道
大鹿 隆浩	第301映像写真中隊	R7.5.19	埼玉県
廣恵 次郎	教育訓練研究本部	R7.8.15	埼玉県

令和6年度信友会会計報告

(R6.1.1～R6.12.31)

(単位:円)

収 入		支 出	
前 年 繰 越	1,466,896	慶 弔 費	91,263
入 会 費(センター)	170,000	郵 送 等 事 務 費	61,651
通信等事務費(センター)	944,000	印 刷 費	625,075
通信等事務費(直接:口座)	28,000	原 稿 料	18,810
利 子	28	地 方 交 付 金	6,795
寄 付 等	120,434	手 数 料 等	-
		次 年 度 繰 越	1,925,764
計	2,729,358	計	2,729,358

以上のとおり報告します。

信友会会計幹事

令和7年1月22日

亀澤 秀樹

和泉 賢一

監査の結果、異常ありません。

信友会監事

令和7年1月22日

秋山 賢司

中村 靖彦

【会計から連絡】 令和8年度につきましては、2000円の振込票を送付いたします。なお、令和6年度及び7年度いずれも納金されていない会員には、4000円の振込票を送付いたします。処置の程、よろしく願いたします。

令和7年叙勲おめでとうございます

春

瑞宝小綬章 田中 達浩 元通信学校長

瑞宝小綬章 山根 洋 元システム開発隊長

瑞宝小綬章 鮫島 茂広 元通信保全監査隊長

瑞宝双光章 後藤 徳明 元東北方面通信群

秋

瑞宝小綬章 今井 恵治 元通信団副団長

瑞宝小綬章 田辺 利明 元幹部学校主任教官

瑞宝双光章 福丸 竜子 元鹿児島地方協力本部

瑞宝双光章 林 武彦 元中央基地システム通信隊

訃報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

(前号以降、判明時期順。掲載辞退除く)

氏名	逝去年月日	住所
木部 英人	R07.01.17	埼玉県
内木場 康朗	R06.09.26	東京都
関 幾雄	R06.08.19	神奈川県
熊谷 猛	R07.06.10	東京都
白尾 惇	R07.06.11	神奈川県
涌井 達男	R07.03.24	埼玉県
山下 淳一	R04.02.24	熊本県
上杉 公雄	不明	熊本県
今村 武久	R07.01.17	熊本県
椎葉 秋登	R07.01.15	新潟県
竹内 昭	R04.01.12	東京都
白川 尚弘	R07.07.11	千葉県
水口 二平	R07.05.01	千葉県